

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">教育行政学</p>	<p>対象学科・学年 文学部教福3回生 教育教福3回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">開沼 太郎</p>																																
<p>授業テーマ 教育行政の制度や組織、実態の検討を通して、今日の教育現象を取り巻くメカニズムを理解する。</p>																																		
<p>授業の概要と目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、「教育行政学」とは何か、教育行政の役割や課題について、主に制度的側面や法規的側面から検討する。 2、「生涯学習体系」と称される現在の社会体系下で、学校教育や社会教育がどのような位置づけで条件整備されてきたのか、また「中央」と「地方」、「公」と「私」の関係がそれぞれどうなっているのか、法理論と実態の両面から把握する。 3、今日積極的に進められている「教育改革」の様々な試みや、教育行財政政策の動向を理解する。 																																		
<p>評価方法 試験：40%程度、平常点（出席など）：30%程度、課題演習（発表や提出）：30%程度 を目安に総合評価を実施する。</p>																																		
<p>テキスト 講義時に指示する。 必要に応じて配付資料やオンライン資料などを利用する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>																																
<p>参考書 講義時に随時指示する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>																																
<p>授業スケジュール・内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">題目</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(01) ガイダンス</td> <td>本講義の概要について</td> </tr> <tr> <td>(02) 教育行政の実際</td> <td>現在展開される教育実践と教育行政との関係について</td> </tr> <tr> <td>(03) 「教育行政学」とは</td> <td>研究の領域、成立、意義、対象、方法 など</td> </tr> <tr> <td>(04) 教育行政の史的展開 ①</td> <td>戦前までの教育行政の理念と特色</td> </tr> <tr> <td>(05) 教育行政の史的展開 ②</td> <td>戦後改革期～55年体制期の教育行政の理念と特色</td> </tr> <tr> <td>(06) 教育行政の史的展開 ③</td> <td>現在の教育行政改革の流れと特徴について</td> </tr> <tr> <td>(07) 教育法制と教育行政 ①</td> <td>教育の基本的原理に関する法規</td> </tr> <tr> <td>(08) 教育法制と教育行政 ②</td> <td>学校教育の運営や管理に関する法規</td> </tr> <tr> <td>(09) 教育法制と教育行政 ③</td> <td>教職員の身分や地位に関する法規</td> </tr> <tr> <td>(10) 「生涯学習」と教育行政</td> <td>生涯学習体系の制度的背景と学校教育および社会教育の関係性</td> </tr> <tr> <td>(11) 社会の変化への対応と教育行政 ①</td> <td>「少子高齢化社会」と教育行財政改革の動向</td> </tr> <tr> <td>(12) 社会の変化への対応と教育行政 ②</td> <td>「国際化社会」と教育行財政改革の動向</td> </tr> <tr> <td>(13) 社会の変化への対応と教育行政 ③</td> <td>「情報化社会」と教育行財政改革の動向</td> </tr> <tr> <td>(14) 「教育行政学」の実際</td> <td>研究動向のレビュー、意見交換 など</td> </tr> <tr> <td>(15) まとめ</td> <td>本講義のまとめ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 授業では、コンピュータや携帯電話（情報端末）など、情報通信機器を積極的に活用する予定である。受講者には専門的な技術や知識は必要ないが、主体的かつ積極的な活用姿勢を望みたい。</p>			題目	内容	(01) ガイダンス	本講義の概要について	(02) 教育行政の実際	現在展開される教育実践と教育行政との関係について	(03) 「教育行政学」とは	研究の領域、成立、意義、対象、方法 など	(04) 教育行政の史的展開 ①	戦前までの教育行政の理念と特色	(05) 教育行政の史的展開 ②	戦後改革期～55年体制期の教育行政の理念と特色	(06) 教育行政の史的展開 ③	現在の教育行政改革の流れと特徴について	(07) 教育法制と教育行政 ①	教育の基本的原理に関する法規	(08) 教育法制と教育行政 ②	学校教育の運営や管理に関する法規	(09) 教育法制と教育行政 ③	教職員の身分や地位に関する法規	(10) 「生涯学習」と教育行政	生涯学習体系の制度的背景と学校教育および社会教育の関係性	(11) 社会の変化への対応と教育行政 ①	「少子高齢化社会」と教育行財政改革の動向	(12) 社会の変化への対応と教育行政 ②	「国際化社会」と教育行財政改革の動向	(13) 社会の変化への対応と教育行政 ③	「情報化社会」と教育行財政改革の動向	(14) 「教育行政学」の実際	研究動向のレビュー、意見交換 など	(15) まとめ	本講義のまとめ
題目	内容																																	
(01) ガイダンス	本講義の概要について																																	
(02) 教育行政の実際	現在展開される教育実践と教育行政との関係について																																	
(03) 「教育行政学」とは	研究の領域、成立、意義、対象、方法 など																																	
(04) 教育行政の史的展開 ①	戦前までの教育行政の理念と特色																																	
(05) 教育行政の史的展開 ②	戦後改革期～55年体制期の教育行政の理念と特色																																	
(06) 教育行政の史的展開 ③	現在の教育行政改革の流れと特徴について																																	
(07) 教育法制と教育行政 ①	教育の基本的原理に関する法規																																	
(08) 教育法制と教育行政 ②	学校教育の運営や管理に関する法規																																	
(09) 教育法制と教育行政 ③	教職員の身分や地位に関する法規																																	
(10) 「生涯学習」と教育行政	生涯学習体系の制度的背景と学校教育および社会教育の関係性																																	
(11) 社会の変化への対応と教育行政 ①	「少子高齢化社会」と教育行財政改革の動向																																	
(12) 社会の変化への対応と教育行政 ②	「国際化社会」と教育行財政改革の動向																																	
(13) 社会の変化への対応と教育行政 ③	「情報化社会」と教育行財政改革の動向																																	
(14) 「教育行政学」の実際	研究動向のレビュー、意見交換 など																																	
(15) まとめ	本講義のまとめ																																	